

「人権教育総合推進地域事業」事業実施報告書

都道府県・指定都市名（鹿児島県）

1. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

個性を認め合い、豊かな仲間づくりをめざして
～小中一貫教育を通じた、学校・家庭・地域との連携・協力による取組～

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

本市は、平成 17 年 5 月に 4 町が合併し、平成 31 年度で 15 年目を迎える。また、平成 29 年度から、小中一貫教育を 7 中学校区で実施している。

日吉中学校区では、平成 30 年度に、日置小・住吉小・日新小・吉利小の 4 小学校を再編し、新たに日吉小学校として開校し、さらに、平成 33 年度には、日吉小と日吉中を一体化し、義務教育学校（日吉学園）設立となる予定である。

この間、4 小学校から集まった児童が、日吉小という新たな学校の風土を創造していくためには、まずは、お互いを理解し、よき人間関係を構築していくことが基盤となるものとする。

そこで、本事業に取り組むにあたっては、個性を認め、豊かな仲間づくりを育むという人権教育の充実をめざして本テーマを設定した。さらに、義務教育学校への移行を視野に入れて、学校・家庭・地域と連携・協力しながら、本市の小中一貫教育の取組を活用していくこととした。

2. 調査研究の体制・内容等

(1) 推進地域の概要

推進地域名	推進地域 市区町村教育委員会名	これまでの 研究指定等の状況
日置市立日吉中学校区	日置市教育委員会	平成 30 年度・令和元年度 人権教育開発事業（人権教育総合推進地域事業）

(2) 推進協力校の概要

学校名	学級数	児童生徒数
日置市立日吉小学校	9 学級 (うち特別支援学級 3 学級)	全児童数：171 人 (令和 3 年 2 月 26 日現在)
日置市立日吉中学校	4 学級 (うち特別支援学級 1 学級)	全生徒数：92 人 (令和 3 年 2 月 26 日現在)

(3) 指定理由

日吉地域は、平成30年度に4小学校を再編し日吉小学校として開校し、さらに、令和3年度には、日吉小と日吉中を一体化し、義務教育学校（日吉学園）を新設する。そのため、個性を認め合い、豊かな仲間づくりを進めていくことが極めて重要である。また、日吉小・日吉中ともに児童生徒支援加配教員が配置されており、研究実践を進めていくうえで、核となる教員もいることから、日吉地域を指定した。

3. 取り組んだ人権課題について

(1) 人権課題「子供」について取り組んだこと

鹿児島県教育委員会が推進している「M o m（見つめる・思いをめぐらす・向き合う）」の視点に立った学級づくり
いじめ・不登校への対応

(2) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	○
②高齢者	○
③障害者	○
④同和問題	○
⑤アイヌの人々	
⑥外国人	○
⑦-1 HIV感染者等	○
⑦-2 ハンセン病患者等	○
⑧刑を終えて出所した人	
⑨犯罪被害者等	
⑩インターネットによる人権侵害	○
⑪北朝鮮当局による拉致問題等	○
⑫性的指向，性自認	○
⑬その他（ ）	

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容

ア 豊かな人間関係づくり・仲間づくりのための年間指導計画の作成及び計画的な実施

仲間づくりをめざした人権教育の年間指導計画を作成し、交流やお互いを認め合う活動を意図的・計画的に行うとともに、校内研修の充実を図っていけば、個性を認め合い、豊かな人間関係を構築していくことができるのではないかと。

(ア) M o m（見つめる・思いをめぐらす・向き合う）の基本姿勢に立った校内研修の改善

(イ) 交流やお互いを認め合う場の工夫（人権教室及び人権集会の充実）

(ウ) 人権教育研修資料「なくそう差別 築こう明るい社会」や人権教育指導資料「仲間づくり」の意図的・計画的な活用を図るための工夫

イ 人権意識を高めるための小・中学校合同職員研修の工夫

小中の教職員が、互いに情報や課題を共有化したり、家庭・地域との連携を一体となって取り組んだりしていけば、児童生徒の自尊感情が育まれるとともに、日吉地域全体での人権意識が高まっていくのではないかと。

- (7) 地域と一体となった人権教育総合推進会議の機能化
 - ・ 人権教育推進委員会の定期的な開催及び人権教育総合推進会議の開催
 - ・ 家庭・地域の人権意識の高揚を図る取組（のぼり旗等の活用、人権標語ポスターの募集及び人権カレンダーの日吉地域全戸への配布）
- (4) 情報や課題をより適切に共有するための小・中合同の職員研修の工夫
 - ・ 日吉地域小中一貫教育研修会の充実
 - ・ 職員研修における指導・講師派遣等の支援
 - ・ 研究テーマと関連した教育講演会の実施（児童生徒の自尊感情を高める教師の働きかけについて）

(2) 実施方法

- ア 仲間づくりのための年間指導計画の作成及び計画的な実施
 - ・ 日吉小・中学校で、「仲間づくり」という視点で再配列したり、視点を加えたりして教科・領域等の教育課程を作成した。
 - ・ 宮丸太鼓店 宮内礼治氏や中央大学客員研究員高橋聡美氏等、外部講師によるワークショップを多く実施し、児童生徒の自尊感情の高める取組を行った。
- イ 人権意識を高めるための小・中学校合同職員研修の工夫
 - ・ 外部講師を招いて小中一貫職員研修を実施したり、職員を人権同和教育課の「Mom学級づくり連続講座」に参加させ全体に還元させたりして職員研修の充実を図った。
 - ・ 日吉地域で活用した外部講師を日置市の講演会でも招聘し、日置市全体へ日吉地域の取組を還元した。
 - ・ 各学校の担当者を中心とした人権教育推進委員会を年8回程度実施し、行事等の企画・運営を行った。
 - ・ 人権カレンダーを日吉地域全戸（2500戸）へ配布したり、人権ポスター（50部）を5地区公民館へ10部ずつ配布したりして、地域や家庭への啓発を図るとともに、人権週間にのぼり旗を活用した啓発活動も行った。
- ウ 人権課題に対する取組について
 - (7) 女性の人権
 - 高橋聡美教授による人権教育ワークショップ（12月実施・小4及び中1対象）の中で、コロナ禍で自宅の滞在時間が増えたことで、女性へのDVなど、女性の人権が脅かされている現実があることを学んだ。
 - (4) 高齢者や障害者の人権
 - 福祉体験（小6対象で11月実施、中1対象で1月実施）の中で、高齢者や障害者の不自由さを体験することを通して、高齢者や障害者への理解を深めた。
 - (9) 同和問題
 - 年度初めに、職員研修で部落問題について共通理解を図るとともに、小学校では、「総合的な学習の時間」の中で、皮革製品についてのワークショップ（小6対象で9月実施）「解体新書」に係る社会の授業（小6対象で10月実施）での役割演技、また、中学校では、社会科（中2対象）の歴史・文化の分野で部落差別を扱い、同和問題について理解を深めた。
 - (5) 外国人の人権
 - 「総合的な学習の時間」（小5対象で10月実施）の中で、コートジボワールの伝統文化について話を聞き、外国人の人権について考える機会を設けた。

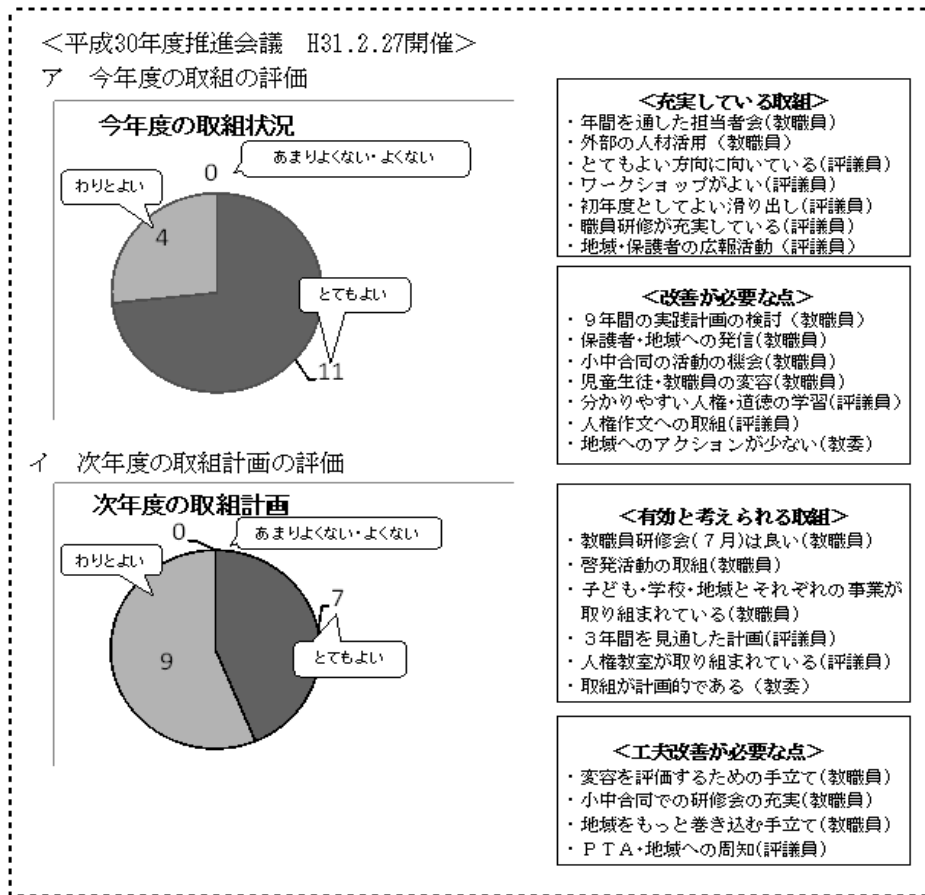
- (オ) HIV感染者の人権
血液教室（中3対象で1月実施）の中で、HIV感染について話の中で、感染者の人権について考えを深めた。
- (カ) ハンセン病患者
社会科（小5対象・3学期）の中で、ハンセン病やハンセン病患者の人権について理解を深めた。
- (キ) インターネットによる人権侵害
中学校において、9月に専門家を招き、全校生徒を対象とした講演を実施、インターネットによる人権侵害やネット機器利用による健康被害について理解を深めた。
- (ク) 北朝鮮当局による人権侵害
中学校3年生の社会（歴史）の中で、北朝鮮による人権侵害について理解を深めた。
- (ケ) 性的志向・性自認
高橋聡美教授のワークショップ（12月実施・小4及び中1対象）や性感染予防教室（中3対象で12月実施）の中で性的マイノリティの人権について理解を深めた。

（3）検証・評価・普及

ア 各学校の毎学期の学校評価に、次のような人権教育に係る共通の点検・評価項目を設定した。

	評価項目
①	人権同和教育に対する正しい理解と研修の充実が図られているか
②	自己肯定感を高める取組がなされているか
③	学校経営及び全ての教育課程を通して、望ましい人間関係作りの実践がなされているか

イ 人権教育総合推進会議において、次のように各学校の取組を評価し、次年度の取組に生かすことができた。



- <人権教育総合推進会議のまとめ>
- 今年度の取組の成果や課題・次年度の計画について、情報を共有し、更なる連携への意識を高められた。
 - 次年度に向けた要望で生かしていきたいこと
 - ① 保護者・地域の方を対象とした講演会の実施
 - ※ 時期は今後検討、講師は、中原直美さん(人権委員)と協議する。
 - ② 変容を見取る手立てについて、検討する。
 - ※ 各校の1年目の児童生徒アンケート結果を今年度中に集約しておく。

平成30年度人権教育総合推進会議における評価から(例)

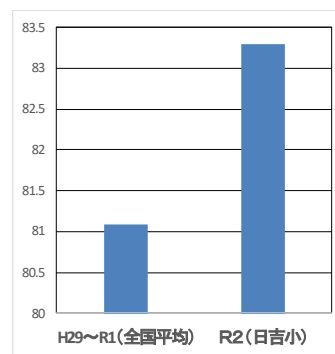
ウ 児童生徒アンケートを実施し、意識の変容を確認するとともに、取組の点検・評価を図った。

(ア) 日吉小学校の取組について

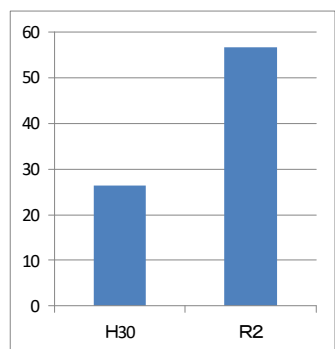
自他のよさや違いに気づき、互いに認め合える児童の育成を視点とした授業や学校行事等を学校全体で取り組むことにより、児童同士の会話の中に「がんばったね。」「大丈夫だよ。」など互いの思いを伝え合い認め合う声掛けが増えてきた。

また、校内人権週間や人権集会、人権を意識した様々な活動に取り組んだり、高齢者とのふれあいや幼稚園との交流活動を進めたりしたことで、相手の思いに触れ、相手の考えや立場を大切にしようとする態度が身に付いてきた。

令和2年度の6月に、日吉小学校の全児童に対して「自分にはよいところがあると思いますか」という質問のアンケートを行った。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合は、83.3%であった。これは、全国学力・学習状況調査の質問紙における同様の質問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合（平成29年度から令和元年度における全国の平均値）を上回っている。これは、日吉小学校のこれまでの様々な取組における成果の表れではないかと考える。



また、上記のアンケート「先生は自分のよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対して「当てはまる」と回答した児童の割合は、平成30年度の児童（日置小）と比較すると、およそ30%増加している。

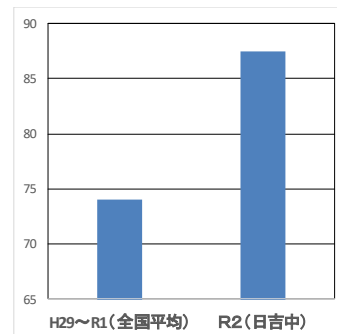


人権教育指導資料の「仲間づくり」（鹿児島県教育委員会）を用いた職員研修等を通して、職員が誉めることの意義や活動について深く理解し、様々な活動の中で児童の自尊感情を高める取組を行ったことによるものと考えられる。

このような成果がある一方で、児童の日常の学校生活の中における変容は、まだ必ずしも十分とは言えない。また、人権教育の視点から諸活動を再点検し、より実効性のある計画を作成していきたい。

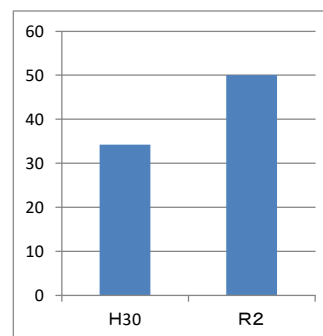
(イ) 日吉中学校の取組について

令和2年度の6月に日吉中学校の全生徒に対して「自分にはよいところがあると思いますか」という質問のアンケートを行った。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合は87.5%であった。これは、全国学力・学習状況調査の質問紙における同様の質問で「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童の割合（平成29年度から令和元年度における全国の平均値）を大幅に上回っている。



これは、生徒たちがワークショップ等の他者との関わりの中で、自他のよさを認め合える人間関係づくりを学ぶことができたことによるものと考えられる。

また、全国学力・学習状況調査の生徒（3年生対象）質問紙の結果（平成30年度と令和2年度の比較）において、「先生は自分のよいところを認めてくれていると思いますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答した生徒の割合は、平成30年度と比較すると、およそ15%増加している。



人権尊重の立場に立った指導の在り方を学ぶ職員研修やペップトークなど、技術の向上を図る職員研修を通して、職員が誉めることの意義や活動について深く理解し、様々な活動の中で、生徒の自尊感情を高める取組を行ったことによるものと考えられる。

以上のように、日吉小学校においては「仲間づくり」、日吉中学校においては「自

尊感情の高まり」を研究の視点として、校内研修の充実を図り、教職員がMomの基本姿勢で児童生徒と関わることを意識してきたことにより、児童生徒の自尊感情が高まってきたと考えられる。また、学校・家庭・地域が連携し、小中一貫した人権教育の取組を行うことで、日吉地域全体の人権に対する意識が高まってきていると思われる。

今後は、自尊感情を高める指導方法について、小学校と連携して継続的な実践を積む必要がある。また、義務教育学校になることを見据え、年間を通した人権教育の活動や異学年とのつながりを大切に活動について考える必要がある。

(ウ) 全体の取組について

地域と一体となった人権教育総合推進会議の機能のために、それに係る会議、のぼり旗の活用、人権カレンダーの配布を通して、地域への啓発を行い、学校における人権教育を理解していただくきっかけをつくることのできた。

今後は、学校に対する取組がどうであったか等の地域からの評価をさらに生かしていくためにも、来年度の学校運営協議会を活性化させていく必要がある。

また、各学校で、個性を認め合い、豊かな仲間づくりをめざして様々な取組を行うことで、児童生徒は、自他のよさを認め合うことのよさ等についての理解を深めてきた。一部の児童生徒には、一時の感情により、思いやりに欠ける言葉を友達にかけるトラブルがあったり、自分がきつい思いをしていることを伝えて受け止め合うことができなかつたりする様子もまだ見られる。

今後は、これまでの取組を「学校生活や家庭生活につなげる」という視点で更に研究を深め、児童生徒の人権感覚を高めて、よりよい仲間づくりができるようにしていきたい。

エ 日吉地域の人権教育推進の取組状況をまとめ、令和2年4月14日の校長研修会及び翌日の教頭研修会で紹介し、取組の普及を図った。

(4) 実施状況

＜都道府県教育委員会＞

時 期	内 容	備 考
5 月	日置市教育委員会への書面での指導 (事業に係る研究内容、予算について)	
6 月 17 日	第 4 回人権教育推進委員会 (研究授業の指導内容について指導)	本課, 教育事務所, 市教育委員会担当者, 学校教職員 9 人
6 月 25 日	日置市立日吉小学校研究授業 (研究授業についての指導)	本課, 教育事務所, 市教育委員会担当者, 学校教職員 18 人
6 月 26 日	日置市立日吉中学校研究授業	教育事務所, 市教育委員会担当者, 学校教職員 15 人
11 月 6 日	日置市教育委員会への訪問指導	本課, 教育事務所, 市教育委員会担当者, 学校教職員 5 人
11 月 13 日	日置市立日吉市小学校への訪問指導	本課, 教育事務所, 市教育委員会担当者, 学校教職員 6 人
2 月	書面による教育委員会, 学校への指導 (事業に係るこれまでの取組や今後の課題について)	

< 推進地域市区町村教育委員会・推進地域 >

時 期	内 容	備 考
4月27日	第1回人権教育推進委員会（研究公開に向けた協議）	参加者：推進委員 5人
5月27日	第2回人権教育推進委員会（研究公開に向けた協議）	参加者：推進委員 5人
6月2日	いのちふれあい教室（日吉中）	参加者：2年生 42人
6月12日	第3回人権教育推進委員会（研究紀要・指導案の検討）	参加者： 推進委員等 7人
6月17日	第4回人権教育推進委員会（研究授業の指導内容の検討）	参加者： 推進委員等 7人
6月25日	研究授業・授業研究（日吉小）	参加者：教職員 18人
6月26日	研究授業・授業研究（日吉中）	参加者：教職員 14人
7月上旬	人権標語・ポスターの募集	
9月17日	第5回人権教育推進委員会（ワークショップ ^o に向けた協議）	参加者：推進委員 5人
9月18日	人権教育ワークショップ（日吉小） ※ 宮丸太鼓店 宮内礼治さん	参加者：4年生 31人
10月9日	人権教育ワークショップ（日吉中） ※ (株)リアライズ 川添まり子さん	参加者：全校生徒 104人
10月27日	第6回人権教育推進委員会（人権カレンダー・ポスター作成）	参加者：推進委員 5人
12月8日	人権教育ワークショップ ※ 講師：防衛医科大学 高橋聡美教授	参加者： 日吉小 33人 日吉中 27人
12月17日	第7回人権教育推進委員会（人権教育推進会議に向けて）	参加者：推進委員 5人
2月	人権カレンダー配布（日吉地域全戸2500戸）・人権ポスター配布（5地区公民館50部）	
2月26日	日吉地域人権教育推進会議（研究のまとめ）	参加者：協議会委員 24人

5. 推進体制等

(1) 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

